

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【札幌市】

1 実践テーマ	【 IV 】
2 実施対象者	市立札幌開成中等教育学校 全学年 952名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（1～4年 総合的な学習の時間） （5年 コズモサイエンスⅠ／総合的な学習の時間） （6年 コズモサイエンスⅡ／グローバル探究） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	・SGH（スーパーグローバルハイスクール）5年目の取組として、「君が変わる30分（本校企画のプロフェッショナルによる講演会）」特別編を企画し、本校SGHの目的である『『さっぽろ』で学んだというアイデンティティに立脚して、札幌市の考える『国際的素養』（①自ら課題を発見し生涯にわたって学び続ける力。②自己を肯定し多様な価値観を認め合う心の余裕。③未知なるものに挑戦し自ら切り拓く勇氣。）を身に付けたグローバル人の育成』を目指す。札幌市のオリンピック招致活動は、平成28年11月、日本オリンピック委員会に開催提案書を提出することから始まったが、本校においては同年12月21日、秋元札幌市長が来校し、「招致を目指して」と題した講演会を市長自らがを行い、承知の目的と期待を生徒の前で語った。今回の講演会は、姉妹校等との交流はもとより、招致実現後に想定される各国来訪者の受け入れに関して、世界の国や人々の理解を深めるための観点を世界の国旗・国歌を通して学習する。
5 取組内容	○指導計画【5時間扱い】 (1) 講師 ・吹浦 忠正 氏 「国旗と儀式の専門家」オリンピック東京大会（1964）組織委員会国旗担当専門職員、長野冬季オリンピック大会（1998）組織委員会儀典担当顧問、NPO法人世界の国旗研究協会会長兼理事長、朝日新聞フォトアーカイブ担当アドバイザー ・新藤 昌子 氏 ソプラノ・リリコレッジェーロ。二期会・東京室内歌劇場会員。東京大学大学院情報学環作曲・指揮研究室演奏主任。 講演内容 姉妹校や海外見学旅行訪問国、または本校職員の出身国などを中心に国旗・国歌から見る世界の国々に関する講演を行う。 (2) 対象国 1・2年 ベトナム・シンガポール・イギリス 3・4年 タイ・マレーシア・ドイツ 5・6年 オーストラリア・中国・台湾 (3) 授業計画 ・事前に講演内容に関するリサーチを行い、対象国の歴史や文化を探究して理解を深める。 (1・2時間目／5時間) ・国旗と儀式の専門家の講演を聴き、プロフェッショナルの歌い手による国

	歌独唱を聴く。 (3・4時間目／5時間) ・リフレクションを行うとともに、級友のまとめを共有してグローバル人の素養を身に付ける。 (5時間目／5時間) ○取組の様子 (本校HPの当該記事より) 札幌市教育委員会の推進する「オリンピック・パラリンピック教育事業」の一環として、本校ではSGH「君が変わる特別編」として位置づけ、1964年の東京オリンピックの際に当時学生でありながらも組織委員会国旗担当職員となったという日本の「国旗研究のオーソリティ」吹浦忠正氏を招聘し、世界の国旗の文化や歴史の背景を知ることから世界平和を希求するための「多様性の理解」を深める機会とし、また世界75か国もの国歌を原語で歌えるという声楽家新藤昌子氏による多くの国歌を言語で聴ける貴重な時間を堪能し、今回は全校6学年を「基礎期」「充実期」「発展期(編入生)」の3回に分けて、ありがたくもそれぞれで話題を変えていただく贅沢な時間を頂戴した。 いうまでもなく、国旗や国歌には必ず作られた背景や意味があり、その背景を知ることが文化の理解であり、その文化を享受する人の心の理解にもつながるということを知るには、具体的な事例があまりにも豊富で、文字通り「多様性のシャワーを浴びる思い」で聴講し、知的好奇心が掻き立てられてもっと知りたくなる思いだった。吹浦先生の新しい本では「国旗で読む世界史」(祥伝社新書、2017年)を勧められた。	 
6 主な成果	(生徒のリフレクションシートから) 【今の日本と世界情勢を考えて、あなたは「多様性」をどう考え、どうあってほしいと願う】 ・文化や風土は国々の財産という意識を各国が持ち続けて、その財産が「多様」であってほしい。 ・集団心理によって多様性をつぶしてしまうことを防ぐ必要があると思う。 ・さも独立しているようでも、よくみると複雑な関係の上になりたっている。「多様」にみえるものでも根本にあるものは同じだったりする。表面だけでなく根本もよくみるべき。 ・日本人は何事においても多様性よりも「統一」を好む傾向があるが、それは世界の国々と比べて珍しいし、異常だと思う。もっと多様性を認める社会になるべきだと思う。特に学校や会社。 ・同じ国内でも様々な見方があると思うが、他国に対するとさらに様々な見方があると思われる。一つ一つの見方をつぶすのではなく尊重し合いながら深い意味を知ることができるようになってほしい。 【聴く前と聴いた後で自分自身が変わったこと】 ・様々な国歌・国旗があって、オリンピックやスポーツの大会等でテレビに映ることはあっても今まで関心を持つことがなかったということが逆に不思議に思えてきた。国歌や国旗はその国のトレードマークであるだけでなく、多様な歴史や風土を形にしたものであり、自国のものも他国のものも、丁寧に扱って尊重し合うことが大切だと分かった。 ・日本にいても世界とかかわっていると知れて、いつでもつながっていると感じた。	
7 実践において工夫した点	・SGHの理念の具現化	
8 主な課題等	・外部講師との打合せ時間確保(開始直前の来校のため準備が当日対応) ・事前研修と事後研修の時間確保(実施時期によっては他活動と重複)	
9 今後の取組について	・本活動を契機として全教育活動における多様性理解の積極的推進	